

## (資料4)

### 旧料亭菊水(きゅうりょうていきくすい)

員数：1件

所在地：新城市大野字上野 17-7

所有者：株式会社スエヒロ産業

#### 1 登録理由

別所街道の宿場町として栄えた大野宿の中心に所在する元料亭。国産の型板ガラスを多用して、明るい開放的な空間となっている。  
(登録基準：再現することが容易でないもの)

#### 2 概要

木造2階建、瓦葺、建築面積37㎡、建設年代 大正後期

大野宿は秋葉山と鳳来山を結ぶ街道の宿場町で、江戸時代は徳川幕府の天領となり、明治期には製材業と養蚕で栄えた。

旧料亭菊水は大野地区の中心地に所在する。旧料亭菊水は、旧大野銀行（鳳来館）に隣接している現在地で、大正時代から料亭と肉屋を経営していたが、後に通りに面した店先を肉屋とし、敷地の奥を料亭「菊水」として新築したのが現存の「旧料亭菊水」である。建物は2階を客室とし、1階を管理人の居室兼管理事務室として建てられている。

1階の南側に一間の床の間と飾り棚付の横長の六畳室、その東側に半間の廊下を配し、北側は六畳室を縦長に配し、東側には幅半間、長さ二間の玄関を配し、その東側に突出させて便所と2階への玄関階段室を配している。地袋の戸は<sup>かまち</sup>框<sup>1</sup>を春慶塗とし、天板は枋板を用いている。南側のガラス障子戸は幅3尺4枚引違とし、横棧は4段とし、上段は細い横棧、中段は額付のガラス窓、下段は縦棧の透明ガラスを用い最下段は腰板を張るなど凝った造りの障子戸で、ガラスは型板を用いている。

2階は六畳室二室を南北に横長に並べ、中央に畳敷の半間の廊下を取り、西側に半間幅の床の間、床脇、押入を配し、東側に半間幅の<sup>えんこういた</sup>縁甲板<sup>2</sup>張廊下を配している。南側に接して階段室を配している。南側ガラス障子戸は3段とし、上段は縦棧、中段は額入り、下段は煉瓦積の組子とするなど上品な意匠を用いている。東側廊下との間仕切は障子戸

<sup>1</sup>框：床の間や玄関の部分に横に入れる化粧材のこと。いろいろな銘木や塗り物の材料を用いる。

<sup>2</sup>縁甲板：縁側等の仕上げに張る部材のこと。主にヒノキ、杉等の幅のせまい部材である。

で縦棧の雪見障子としている。同廊下北端の便所の戸は腰高ガラス戸でガラスは型板ガラスを用いている。また階段室2階部分のガラス窓は同様に型板ガラスを用いている。

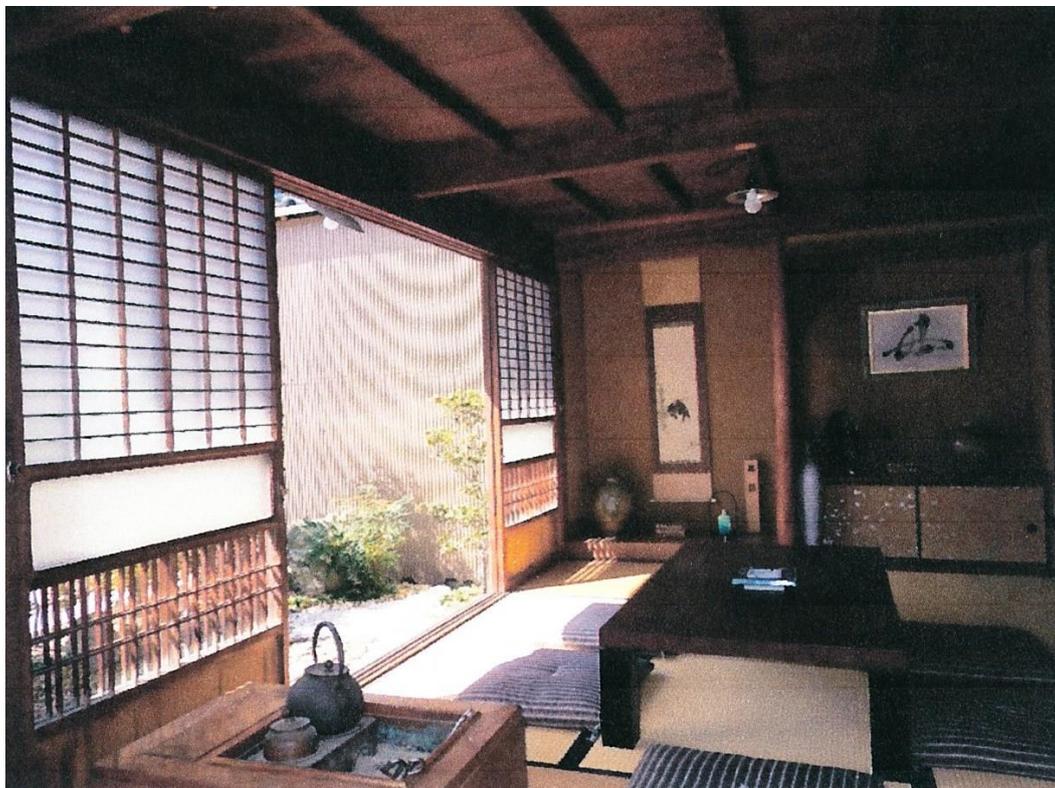
国産の型板ガラスが本格的に造られた時期を示すガラス建具を豊富に用い、新しい時代の和風建築を伝える遺例の一つとして貴重である。



東側正面（新城市教育委員会提供）



南側座敷の東正面（新城市教育委員会提供）



1階南側座敷（新城市教育委員会提供）



2階南側座敷（新城市教育委員会提供）



2階北側室（6畳室）（新城市教育委員会提供）